

平成22年 7月12日

事業の評価書

池田市長 様

協議会名 鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会
 代表者名 梶田良治

記

事業の名称	小学校内照明設置事業
事業実施前の状況	1) 近年、地域行事のために、夜間、緑丘小学校体育館を利用する機会が増加しているが、校門から当該体育館の玄関までの間の照明設備は、校門付近に設置された水銀灯1灯のみで、照度不足であった。特に、玄関付近は、玄関照明の届く範囲が狭く、階段やスロープを利用して出入りする際の安全確保に問題があった。
事業実施後の状況	1) 玄関周辺にLEDライト2灯を増設したことにより、玄関照明の届く範囲を3～4倍に拡大することができた。
事業の効果	1) 上記体育館の夜間利用者の転倒事故未然防止、また、校門—玄関往來の利便性の改善を図ることができた。
今後の課題等	1) 追加安全対策の必要性有無の検証 2) LEDライトの費用対効果の検証

平成22年 7月12日

事業の評価書

池田市長 様

協議会名 鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会
代表者名 梶田良治

記

事業の名称	ふるさと再発見講座開催事業
事業実施前の状況	<p>1) 池田の歴史について学ぶのは、小学3年生以降の授業の中であるが、実地に現場へ出かける機会は限られている。</p> <p>2) 緑丘小、附属小と地域の共催イベントは、従来もいくつかあったが、各校の複数の教員がボランティアで積極的に企画段階から参画するものはなかった。</p>
事業実施後の状況	<p>1) 児童の日常会話の中で、「ふるさと池田探検隊」で訪問した場所について語られるようになった。</p> <p>2) 緑小2名、附小1名の教員が、企画段階から参画され、実施段階では緑小3名、附小7名、五月小1名の教員の協力を得た。</p>
事業の効果	<p>1) 児童のふるさと池田に対する愛着度を測ることは難しいが、日常会話の中で池田が語られることは、一定の効果があったと思われる。</p> <p>2) H22年度の企画段階では、各小学校から新たな協力者を得ることができた。</p>
今後の課題等	<p>1) 子供の心に「ふるさと」に対する愛着を醸成するため、地域でなければできない方法で学校教育を効果的に補完しながら、今後も事業を継続することが重要である。</p>

平成22年 7月12日

事業の評価書

池田市長様

協議会名 鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会
 代表者名 梶田良治

記

事業の名称	街路灯強化事業
事業実施前の状況	1) 緑丘小学校西側道路には約40m間隔で車道用の照明が設置されているが、光源の位置が街路樹より高いため、街路樹の葉が茂る時期になると、舗道は極めて照度不足であった。 また、上記道路は、夜間人気のない緑丘小に隣接しているため、通行人に心理的不安を強いる環境であった。
事業実施後の状況	1) 既設の道路灯を補完する形でLED防犯灯を設置したことにより、年間を通じて十分な舗道照度を確保することができた。
事業の効果	1) 学校施設は、夜間、無人となるため、また、校庭部分は暗い空間が広がっているため、周辺の舗道には十分な照度を確保する必要があった。本事業実施の結果、夜間、上記舗道を利用する人々の心理的不安を軽減することができた。
今後の課題等	1) 防犯効果の評価 2) LED防犯灯の費用対効果の検証

様式第5号(第7条関係)

平成22年 月 日

事業の評価書

池田市長 様

協議会名

鉢塚緑丘地区コミュニティ推進協議会

代表者名

梶田 良治



記

事業の名称	安全マップ作成事業
事業実施前の状況	① 安全・福祉・医療関係等のパンフレットは 市単位で部門ごとに発行されていた。
事業実施後の状況	① 地域の特性を生かしながら、防災・安全・福祉・医療子育て支援を 1冊の保存版として作成した。 ② 小冊子を 各家庭と防災訓練参加者に配布した。
事業の効果	① 防災・安全に対する住民の意識が向上してきた。
今後の課題等	① 自治会等の団体を中心に、防災講習会を開催し小冊子のより効果的な利用が望まれる。

様式第 5 号 (第 7 条関係)

平成 22年 7月 10日

事業の評価書

池田市長 様

協議会名 鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会
 代表者名 梶田 良治



記

事業の名称	ふれあい動物園の開園
事業実施前の状況	子供たちが小動物にふれあい、命の大切さを知る機会が少なかった。
事業実施後の状況	ふれあい動物園を開園することにより、若い子供連れの親子が増えた。 会場案内板の作製設置のより、来場者の誘導がスムーズになった。
事業の効果	ふれあい動物園を開園することにより、若い子供連れの親子が増えた。小動物と触合うことで、生命の大切さと動物をより身近なものに感じてもらった。イベントが増えた事で混雑が緩和された。
今後の課題等	支援事業のため、今後のコミュニティ推進協議会としての実施方法を検討しなければならない。

様式第5号 (第7条関係)

平成 22年 7月 4日

事業の評価書

池田市長 様

協議会名 鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会
代表者名 梶田 良治



記

事業の名称	緑丘校区ふれあいフェスティバル
事業実施前の状況	事業に対して次第に認知されてきたが、もっと広く、多くの方に知ってもらう必要がある。内容的にも魅力あるものをする事で参加者の増加をはかっていく必要がある。
事業実施後の状況	アンケート調査の結果、内容的に「大変良かった」「良かった」との回答が大半をしめた。次回に中吹奏楽を呼んでほしい等の具体的な要望も多く寄せられた。
事業の効果	校区内のボランティアをされている方や、いろんな方々が参加して下さり、地域の市民の交流の場となった。プロの演奏家の演奏に接し「本物」の素晴らしさを体験することができた。
今後の課題等	更に多くの方が集えるように広報活動の充実に取り組んでいきたい。

様式第5号 (第7条関係)

平成22年 6月25日

事業の評価書

池田市長 様

協議会名 銚子緑地地区環境推進協議会
 代表者名 根田 長治 印

記

事業の名称	カブトムシのおやど作りとカブトムシ里親教室
事業実施前の状況	水月公園にはカブトムシが住む環境条件はほぼ整ってはいるが、産卵するための場所(腐葉土)がまったくない状況。又子どもたちも本物のカブトムシにふれ、自然と生命の大切さを知る体験に欠けていた。
事業実施後の状況	地域住民(家族)あがての協働作業によって自然産卵場が、できあがった。又、各家族(家庭)でカブトムシの飼育産卵の体験が、つけられた。
事業の効果	多数の家庭で、カブトムシの幼虫繁殖に成功し、生命の大切さ、ふしぎさを学ぶ事ができた。その上、幼虫は作ったおやどにもどし(自然繁殖場)次年度につなげる事ができた。
今後の課題等	カブトムシに限らず、クワガタムシの飼育体験や自然繁殖も試してみたいと思う。

様式第5号 (第7条関係)

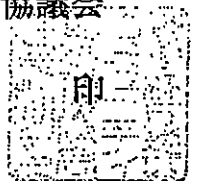
年 月 日

事業の評価書

池田市長 様

協議会名 鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会

代表者名 梶田良治



記

事業の名称	水月公園の憩いと語らいの場を
事業実施前の状況	四季折々に見ごろがあり、近隣の市町村からもたくさんの来訪者がある水月公園はではあるが、地域の人々に憩いの場にはなっていなかった。特に東側通路は急な階段があり、高齢者にほっと一息つける休憩所が求められた。水月公園を鉢塚・緑丘地域の文化財産と位置づけ、「地域住民が憩える場」を基本に、二段階計画に取り組んだ。
事業実施後の状況	第一段階の取り組みとして、水月児童文化センター前（東側入り口）を整備。1. 階段上がりのスロープにテーブル・椅子を設置。2. 垣根を取り外し、芝生を植えてくつろぎスペースづくり。3. 資材置き場との仕切りにもだんな板壁を設置、それに添って新しい道をつくり、「地域住民が憩える場」へ、人の流れをつくる取り組みができた。
事業の効果	工事か完成し、憩いのスペース（テーブル・椅子）に人々がくつろぎ、語り合う姿が見えるようになった。新しいスロープには人々の流れが生まれ、生長が安定した芝生には子どもたちが戯れ、予想以上に「地域住民が憩える場」となった。6月12日、苜蓿まつりでは、その場でフルートとピアノのコンサートとピンゴゲームで盛り上がった。（写真参照）
今後の課題等	どんな企画も活かされるスペースができたが、継続していくことが大切である。また、芝生の手入れを一とする環境整備の住民管理をシステム化することも大きな課題である。（準備は進行中）

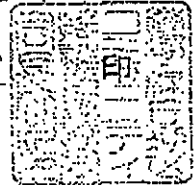
様式第5号 (第7条関係)

平成22年 6月 25日

事業の評価書

池田市長 様

協議会名 鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会
 代表者名 不尾田 長彦



記

事業の名称	わくわくドキ自然・歴史スタンプラリー
事業実施前の状況	地域にすばらしい自然や歴史があるにもかかわらず、無知、無関心の状態であった。
事業実施後の状況	地域内の自然や歴史に関心が高まり、家族のふれあいができた。
事業の効果	地域の自然や歴史の再発見を通じ、鉢塚・緑丘地域のすばらしさや地域にくらす誇りの意識が高まった。
今後の課題等	地域の自然や歴史のふれあい体験をさらに拡大していきたい。

様式第5号 (第7条関係)

平成 22年 7月 9日

事業の評価書

池田市長 様

協議会名 鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会
代表者名 梶田 良治

記

事業の名称	星座観察会
事業実施前の状況	星座観察をすることにより自然のすばらしさを体験学習する場を提供する。 夏と冬の2回の星座観察会を開催。
事業実施後の状況	子どもたちに星座観察を通じて親と子と地域が一体となり自然のすばらしさを体験学ぶことが出来た。
事業の効果	夏の星座観察会では親と子の参加が多く、当初の目的を達成することが出来た。 冬の星座観察会は悪天候のため参加者が少なく残念でしたが、両日とも参加者の評判はよかった。
今後の課題等	自然教育を学ぶことが出来る。 小学校ではなかなか体験することができないので、今後も継続していきたいと思います。